

JICA-ITTO 共催サイドイベント
アフリカの森林の持続可能な経営の推進に向けた取組み

国際協力機構（以下、JICA）は、2013年6月1日（土）17時30分より、パシフィコ横浜アネックスホールB会場にて、国際熱帯木材機関（以下、ITTO）と、アフリカの森林の持続可能な経営の推進をテーマにサイドイベントを開催しました。アフリカからは ITTO 事務局長のエマヌエル・ゼ・メカ氏（カメルーン共和国出身）や ITTO プロジェクトコーディネーターのオリビエ・アヒミン氏、中央アフリカ保護林ネットワーク（以下、RAPAC）保護林管理担当者のセバスチャン・ルック・カムガ・カムテム氏、ITTO 職員のアハドメ・コリンズ氏、ケニア森林研究所（以下、KEFRI）のベン・チカマイ所長が登壇しました。JICAからは、荒川博人理事が登壇し、本日の議論を総括しつつ挨拶しました。



荒川理事による閉会の挨拶

このサイドイベントは、JICAとITTOがアフリカの国々や地域機関等と共に、アフリカの森林の持続可能な経営の推進に向けたさまざまな取組みの紹介、課題及びその解決策について検討を行いました。また、課題解決への方策として“TREES”イニシアティブ（天然資源管理、REDD+、生態系保全、持続的開発に向けた総合的アプローチ）について各国の経験を共有し、今後の政策の在り方について協議するために開催されました。

ITTO 事務局長のエマヌエル・ゼ・メカ氏の基調講演の後に、ITTO プロジェクトコーディネーターのオリビエ・アヒミン氏からは、ATO・ITTOの原則・基準・指標を用いたアフリカの森林のモニター・評価・報告、RAPAC 保護林管理担当者のセバスチャン・ルック・カムガ・カムテム氏からは、コンゴ流域での保護林管理の向上に向けた取組み、ITTO 職員のアハドメ・コリンズ氏からは、熱帯木材・木製品のアフリカ域内での熱帯木材・木製品の貿易の促進に向けた取組み、KEFRIのベン・チカマイ所長からは、東・南アフリカでの社会林業の開発普及を通じた持続可能な森林経営の推進についての取組み報告が行われました。JICAからは、これまでの支援実績を踏まえ、宮園浩樹 JICA 国際協力専門員が、南アフリカ地域での森林の保全と持続可能な経営について「TREES イニシアティブ」の紹介が行われ、パネルディスカッション形式で議論が展開されました。

今回、ITTOとJICAが一同に会した結果、アフリカの森林の持続可能な経営の推進には、総合的なアプローチが重要であることが改めて確認されました。今回の議論が、今後、各国の政策に反映されていくことが期待されます。また、JICAは今後とも、各国のニーズに応じ、草の根レベルの協力から政策提言にいたるまで、さまざまな形で、各国の抱える課題の解決に貢献していきます。

【第5回アフリカ開発会議サイドイベント】

■本イベントの登壇者

【基調講演】

- ・エマヌエル・ゼ・メカ（ITTO 事務局長）

【プレゼンテーション】

- ・オリビエ・アヒミン（ITTO プロジェクトコーディネーター）
- ・セバスチャン・ルック・カムガ・カムデム（RAPAC 保護林管理担当者）
- ・アハドメ・コリンズ（ITTO 職員）
- ・ベン・チカマイ（KEFRI 所長）
- ・宮園浩樹（JICA 国際協力専門員）